

■ 掲示板

■ 理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター 特別研究員及びテクニカルスタッフ募集

募集研究室：利用技術開拓研究部門 米倉生体機構研究室
<http://www.riken.jp/biostrmech>

研究室の概要：当研究室は、主に低温電子顕微鏡法、X線結晶構造解析法、2010年稼働のX線自由電子レーザー（XFEL）等を用いて、生体超分子複合体、膜蛋白質の構造解析、及び構造解析技術の開発を進めている。

募集職種、募集人数及び職務内容：

職種：特別研究員及びテクニカルスタッフ

人数：若干名

職務内容：生体超分子複合体、膜蛋白質の構造解析及び構造解析技術の開発

応募資格：特別研究員：博士号取得の方、もしくは取得見込みの方。

テクニカルスタッフ：修士号取得の方、もしくは取得見込みの方。以下のいずれかの条件を満たす、やる気のある方。

1. 遺伝子操作、蛋白質の発現系の構築ができる方。
2. 画像解析プログラムの開発ができる方。

勤務地：(御)理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター (SPring-8 内)

待遇：年度契約の任期制職員で、評価により（最長で5年）更新可能。給与は、経験、能力、実績に応じた年俸制で、通勤手当、住宅手当の支給有り。社会保険の適用有り。休日は、土日、祝日、年末年始（12/29-1/3）、当研究所設立記念日。その他、当研究所規程による。

日本学生支援機構奨学金免除の対象、科学研究費補助金の申請資格有り。

提出書類：①履歴書（A4版、写真貼付）②研究業績一覧③主要論文（2報程度）の別刷（コピー可）④現職の所属長を含む推薦書1通

選考方法、着任時期：書類審査と面接審査。応相談。

問合せ先・書類送付先：

〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

理化学研究所 利用技術開拓研究部門 米倉生体機構研究室 米倉功治

Phone：0791-58-2837 Fax：0791-58-1844

e-mail：yonekurasc@spring8.or.jp

■ 平成21年度前期 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光共同利用実験課題公募

募集対象：当施設の放射光および低速陽電子を利用する実験。

主に大学等の研究者を対象としますが、科学研究費補助金の申請資格を有する一部の企業等の基礎研究も対象となります。

応募期限：平成20年11月7日(金)

応募要領：今回の申請から Web による申請となります。

申請用の Web ページは平成20年9月末に公開予定です。具体的な申請書作成等に関する詳細については <http://www.kek.jp/uskek/apply/pf.html> を参照ください。研究成果は公表して頂きます。

予算の範囲内で旅費支給等の便宜供与を行います。

申込、資料請求先：高エネルギー加速器研究機構 総務部 研究協力課 共同利用支援室 共同利用係

Tel：029-864-5126 E-mail：kyodo1@mail.kek.jp

■ 財団法人高輝度光科学研究センター研究職員募集

求人人員：下記の4の(1)または(2)のグループリーダー 1名

所属：加速器部門 運転・軌道解析グループ又は加速器第2グループ

専門分野：(1) 運転・軌道解析グループ グループリーダー

運転・軌道解析グループは、加速器の安定な運転に責任を持ち、ビーム調整の計画・実施を中心的に行っています。また、現象論的、理論的なビーム解析・検討を行い、ビーム性能向上の計画・実施を加速器部門の他グループと連携して行っています。また、蓄積リングのビームの状態を計測するための、放射光を用いたビーム診断モニターの開発なども行っています。将来の加速器性能の大幅な性能向上（アップグレード）の計画検討にも寄与します。これらについて、グループリーダーとして意欲的にグループを運営して、業務に取り組んで頂ける方を期待します。

(2) 加速器第2グループ グループリーダー

加速器第2グループは、ブースターシンクロトロンおよび蓄積リングの高周波加速器系、電磁石系、真空系、モニター系などの全ての機器の維持・管理、高性能化を行っています。また、運転・軌道解析グループ等との連携により、ビーム性能向上のための機器開発等も行っています。将来の加速器性能の大幅な性能向上（アップグレード）の計画検討にも寄与します。これらについて、グループリーダーとして意欲的にグループを運営して、業務に取り組んで頂ける方を期待します。

着任時期：採用決定後、可能な限り早い時期

提出書類：

(1) 履歴書（写真添付。指定様式 Web より）

(2) 推薦書（自薦可、様式は任意）

(3) これまでの研究概要

(4) 研究業績リスト（原著論文、総説、学会発表などのリスト）

(5) 研究計画などの今後の抱負、自己PR

(6) 代表的な研究論文の別刷（5編以内）

応募締切：2009年1月16日必着

書類送付先：(1) 679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

(2) 財団法人高輝度光科学研究センター

(3) 総務部人事課

(4) 郵送で「応募書類在中」と朱書

(5) Tel：0791-58-0951, Fax：0791-58-2794

(6) e-mail : jinji-saiyo@spring8.or.jp
 (7) http://www.spring8.or.jp/ja/news/job_opportunity/08a007
 問合せ先：研究・業務内容について

加速器部門 大熊春夫
 e-mail : ohkuma@spring8.or.jp
 Webにて募集要項を確認の上ご応募下さい

■会告

■機関リポジトリへの対応と投稿規程の変更について

近年、国内外の大学・研究機関等では、所属する研究者の学術研究成果等を電子的に保存し、公開するウェブ・サイト（機関リポジトリ）が数多く立ち上がってきています。日本放射光学会では、機関リポジトリに対する対応を検討し、学会誌「放射光」の記事を機関リポジトリへ登録する際の注意事項や手続き等を決めました。また、これに対応して投稿規程を更新しました。

機関リポジトリ登録に対する注意事項や手続きは以下のようになっています。

- (1) 「放射光」に掲載後1年が経過した記事について登録を認める。
- (2) 著作者本人が所属する機関の機関リポジトリへの登録を認める。
- (3) 日本放射光学会から提供された電子ファイル版のみの登録を認める。
- (4) 登録にあたっては、事前に日本放射光学会から許可を得る必要がある。

■日本放射光学会第79回評議員会議事録

日 時：2008年7月12日(土) 14:00~16:00

場 所：理研東京連絡事務所 会議室

出席者：雨宮慶幸（会長）、朝倉清高、飯田厚夫、大橋治彦、大柳宏之、尾嶋正治、加藤政博、鎌田雅夫、木村真一、佐々木聡、繁政英治（渉外幹事）、下村 理、寿栄松宏仁、高田昌樹、並河一道（議長）、藤森 淳、間瀬一彦、水木純一郎、若槻壮市 各評議員、櫻井吉晴（編集幹事）、百生 敦（庶務幹事）、山本雅貴（行事幹事）

欠席者：安藤正海、太田俊明、籠島 靖、小杉信博、澤 博（会計幹事）、辛 埴、大門 寛、竹田美和、田中 均、柳下 明

事務局：佐藤亜己奈（WORDS）、西野三和子（WORDS）

〈報告事項〉

1. JSR09の準備状況

山本行事幹事より、第22回年会・合同シンポ（JSR09）の準備状況（組織委員会、プログラム委員会、実行委員会、予算案）について説明があり、今後のスケジュールについて、企画講演の公募、一般講演の受付開始・締切を例年よりも早めたことが報告された。

また、学生発表賞について組織委員会で検討をした結果、組織委員会主催の学術賞とし、対象は今までは学会員の学生のみだったが、共催団体の学生も含めることとなったことが報告された。選考方法は、審査委員による選考とし、具体的な

選考方法についてはプログラム委員会で検討することとなっている。

2. 20周年記念式典準備

百生庶務幹事、繁政渉外幹事より、20周年記念式典の準備状況について、共催団体（理研、JASRI、物構研、UVSOR）に寄付金やパンフレット購入等の協力を要請したこと、文部科学省・他学協会に後援を依頼したことが報告された。また、20周年記念式典のポスターを確認した。

合同シンポと記念式典の予算を明瞭に切り分けて運営することを確認した。

3. 第13回学会奨励賞公募状況

百生庶務幹事より第13回学会奨励賞の公募状況の報告および審査手順の説明があった。

4. 単行本出版準備状況

櫻井編集幹事より「ビームライン光学技術シリーズ」の単行本「放射光ビームライン光学技術入門～はじめて放射光を使う利用者のために」の出版準備状況について報告があった。体裁は、A5版、モノクロ、約375ページ。部数は500部印刷予定、出版時期は2008年12月を予定している。販売方法は学会直販で学会ホームページから申込を受付ける。価格は会員2,000円、非会員2,500円、2008年末までは先行予約特価、会員1,800円、非会員2,300円で受付ける。宣伝方法としては、学会誌の誌上広告と封筒上広告、各放射光施設のユーザー窓口、講習会・研究会・夏の学校等、大学・研究所等での広告の掲示または配布を行う。

5. 学会誌進捗状況

櫻井編集幹事より、学会誌の進捗状況について報告があった。

6. AOFSSRR (Asia-Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research) 関連

高田評議員より、12月2日-5日にメルボルンで開催される3rd AOFSSRR Workshopの準備状況について報告があった。また、9月29日-10月8日にSpring-8で開催される2nd AOFSSRR Summer School (Cheiron School 2008)の内容および準備状況について報告があった。

7. JSR08報告のSRN寄稿について

繁政渉外幹事よりJSR08の報告をSRN (Synchrotron Radiation News)に寄稿し、Vol. 21, No. 3に掲載されたことが報告された。

〈審議事項〉

1. 会員の異動状況

百生庶務幹事より、第78回評議員会以降の入退会申請者が示され、入会：正会員8名（うち学生会員1名）を承認した。退会に関して、退会：正会員24名（うち学生会員12名）

を確認した。2008年7月12日現在での総会員数は1268名（うち学生会員66名）、賛助会員51社（53口）。

2. 評議員選挙結果

百生庶務幹事より、次期評議員選挙の結果について報告があった。次期評議員は下記の通り。

次期評議員：雨宮健太、足立伸一、柿崎明人、河田 洋、北村英男、木下豊彦、坂田 誠、谷口雅樹、中井 泉、中川和道、野村昌治、山本雅貴、横山利彦、渡辺 巖、渡邊信久

3. 施設間ネットワーク

前会長・庶務幹事より、放射光利用情報ネットワーク構築のための放射光利用 Round Robin（企画）に関する引き継ぎを受けて、山本行事幹事より、施設連携ネットワーク整備にむけたビームライン情報の公開（案）が提案された。また雨宮会長より、まずは幹事会でビームラインの情報を整理することから始めたいとの説明があり、これについて検討をした。学会としてどのような目的意識で何をやるべきなのかを特別委員会などで話し合い、枠組みを整理すべきではないかとの意見が多く、まずは現会長・幹事、前会長・庶務幹事、施設長等で整理し、次回評議員会でより具体的な提案を示すこととした。

4. 「放射光」投稿規程の改定について

櫻井編集幹事より、機関リポジトリへの対応に伴う投稿規程の変更（3.2の追加）について説明があり、承認された。追加内容は下記の通り。

3. 著作権

3.2 機関リポジトリに関しては、掲載後1年が経過した記事について、著作者本人が所属する機関の機関リポジトリへの登録のみを認める。登録にあたっては、事前に日本放射光学会から許可を得なければならず、学会から提供された電子ファイル版のみを認める。また著作権は日本放射光学会に属する。

5. 協賛等について

繁政渉外幹事より本学会に対する協賛依頼等について報告があり、協賛6件、後援2件、協力1件を承認した。

6. シニア会員（仮称）の検討について

前回の評議員会で調べるようになっていた会員の年齢分布が示された。シニア会員（仮称）を検討するよりも、まずは若い会員を増やすことのほうが重要なのではないかとの意見が多く、今後検討していくこととなった。

7. 評議員会日程の確認

第80回評議員会 2008年10月18日(土)14:00-16:00

場所：理研東京連絡事務所 会議室

■会員異動

第79回評議員会（2008年7月12日）で承認

《正会員入会》

澤田 桂 理化学研究所 播磨研究所 石川 X線干渉光学研究室

深井 周也 東京大学

呉 礼斌 鈷産業技術総合研究所 固体高分子形燃料電池先端基盤研究センター

辻 成希 群馬大学アドバンスト・テクノロジー高度研究センター

阿達 正浩 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所 極端紫外光研究施設

原田 哲男 東北大学

杉本 邦久 勸高輝度光科学センター 利用研究促進部門

以上7名

《学生会員入会》

坂本 啓太 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻

以上1名

《退会会員》

正会員12名、学生会員29名

《会員数》

会員 1268名（内学生 66名） 賛助会員 51社（53口）

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2008年 10/1-2	第46回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」	神戸大学 瀧川記念学術交流会館	日本表面科学会 E-mail: shomu@sss.j.org	21・4
10/15-17	第51回放射線化学討論会	産業技術総合研究所 つくば中央第1事業所 共用講堂	日本放射線化学会 E-mail: jsrc2008@m.aist.go.jp	21・3
10/18-19	第44回 X 線分析討論会	日本女子大学 新泉山館	日本分析化学会 X 線分析研究懇談会 E-mail: hayashih@fc.jwu.ac.jp	21・3
10/27-30	第21回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議	JAL リゾートシーホークホテル福岡	第21回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議事務局 E-mail: secretariat@imnc.jp	21・2
10/28-31	第4回真空・表面科学アジア・オーストラリア会議 第49回真空に関する連合講演会（併催）	くにびきメッセ	日本真空協会 E-mail: yoshio.saito@kek.jp	20・6
11/12-14	第49回高压討論会	姫路市姫路商工会議所	日本高圧力学会 E-mail: kawamura@sci.u-hyogo.ac.jp	21・3
11/17	1st Workshop on Micro-and Nano-tomography	SPring-8 放射光普及棟	SPring-8 利用者懇談会・X線マイクロ・ナノトモグラフィー研究会 E-mail: konoki@sp-Mac4.pse.tut.ac.jp	21・5
11/21-22	第37回薄膜・表面物理基礎講座「計算機ナノマテリアルデザイン入門～新物質ナノ超構造・新機能材料薄膜合成の指針をもとめて～」	早稲田大学理工学術院	応用物理学会薄膜・表面物理分科会, CMD(R)& 大阪大学物性グローバルCOE E-mail: divisions@jsap.or.jp	21・5
12/9-13	IUMRS アジア国際会議2008	名古屋市国際会議場	日本 MRS E-mail: iumrsica2008@intergroup.co.jp	21・3
12/24-2009/1/7	ウインター・サイエンスキャンプ '08-'09	大学, 公的研究機関	独立行政法人 科学技術振興機構 E-mail: camp@jsf.or.jp	21・5

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

■1st Workshop on Micro-and Nano-tomography

X線マイクロナノトモグラフィーは、医学・歯学、地球・宇宙物理、材料科学、産業技術など多岐にわたる分野で有効な研究手法である。ここでは、SPring-8の先端撮像技法だけでなく、3D/4D画像解析に象徴される各種高度基礎・応用技術が重要である。しかし、ESRF等と比べてイメージング分野の応用研究は依然として低調であり、よりイメージングに適したX線が得られるSPring-8の活用範囲を狭めている。このワークショップでは、ESRFヘビーユーザーを含めて、2件の基調講演と、5件のSPring-8ユーザーによる招待講演を企画した。SPring-8イメージング技術の最近の進歩と今後の発展を概括しながら、マイクロ・ナノトモグラフィーの学術・産業利用の現状と可能性を広く周知する。また、その効果を最大限に高めるような応用研究の在り方を議論する。

主 催：SPring-8 利用者懇談会・X線マイクロ・ナノトモグラフィー研究会

共 催：勲高輝度光科学研究センター、大阪大学グローバルCOE 構造・先進材料デザイン教育研究拠点

協 賛：日本放射光学会、他

日 時：2008年11月17日(月)

場 所：SPring-8 放射光普及棟

(〒679-5198 兵庫県佐用郡三日月町光都 1-1-1)

事前申込み：

下記までメールでお申し込みください(10月末まで)

参加費：資料コピー代当日申し受けます。

申込先：

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀丘 1-1

豊橋技術科学大学 生産システム工学系

香ノ木史子 TEL：0532-44-6700 (～3時半)

FAX：0532-44-6690 Mail：konoki@sp-Mac4.pse.tut.ac.jp

■第37回薄膜・表面物理基礎講座「計算機ナノマテリアルデザイン入門～新物質ナノ超構造・新機能材料薄膜合成の指針をもとめて～」

共 催：応用物理学会薄膜・表面物理分科会，CMD(R)& 大阪大学物性グローバル COE

協 賛：日本放射光学会，他

日 時：2008年11月21日(金) 9：40-18：30，

11月22日(土) 9：30-17：00

場 所：早稲田大学理工学術院（大久保キャンパス/理工メディアセンター63号館3階C教室）

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

参加費（テキスト代，消費税含む）：

薄膜・表面物理 分科会会員*15,000円，応用物理学会会員**

・協賛学協会会員20,000円，学生***10,000円，その他25,000円

* 薄膜・表面物理分科会賛助会社の方は，分科会会員扱いといたします。現在非会員の方でも参加申込時に薄・表分科会（年会費A：3,000円，B：2,200円）にご入会いただければ，本講座より会員扱いとさせていただきます。下記応物ホームページより入会登録を行い，仮会員番号取得後，本講座に参加お申し込み下さい。入会決定後，年会費請求書をお送りいたします。本講座参加費と同時に振込しないで下さい。

<http://www.jsap.or.jp/>

** 応用物理学会賛助会社の方は，応用物理学会会員扱いといたします。

*** 学生の場合，会員・非会員とも参加費は同額です。

受講者に望まれる計算機スキル：

UNIX ベースのラインコマンドでファイル操作等ができ，vi あるいは emacs を用いてファイルの編集ができること。

定 員：50名

参加申込方法：

下記分科会ホームページ内の登録フォームにて参加登録して下さい。

<http://annex.jsap.or.jp/tfspd/>

参加登録完了後，下記銀行口座に参加費をご連絡いただいた期日までにお振込ください。原則として参加費の払い戻し，請求書の発行は致しません。

*領収書は当日受付にてお渡しいたします。

参加費振込先：

三井住友銀行 本店営業部（本店も可）

普通預金 9474715

①応用物理学会 薄膜・表面物理分科会

(シヤ)オウヨウブツリガツカイハクマク・ヒョウモンブツリブソカカイ

参加申込締切：2008年10月31日(金)

内容問合せ先：

森本章治（金沢大学）

TEL：076-234-4876 FAX：076-234-4870

E-mail：amorimot@ec.t.kanazawa-u.ac.jp

坂間 弘（上智大学）

TEL：03-3238-3435 FAX：03-3238-3341

E-mail：h-sakama@sophia.ac.jp

渡邊孝信（早稲田大学）

TEL & FAX：03-5286-1621

E-mail：watanabe-t@waseda.jp

参加問合せ先：

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-12-3

井門九段北ビル5F

応用物理学会 分科会担当 伊丹

TEL：03-3238-1043 FAX：03-3221-6245

E-mail：divisions@jsap.or.jp

■ウインター・サイエンスキャンプ'08-'09

先進的な研究施設や実験装置等を有する日本各地の大学・公的研究機関（13会場）が冬休みに高校生等を受け入れ，第一線で活躍する研究者・技術者等から直接講義や実習指導が受けられる科学技術体験合宿プログラム。募集要項は web サイトから入手可能。

主 催：独立行政法人 科学技術振興機構

開催日：2008年12月24日～2009年1月7日の冬休み期間中の2泊3日

参加費：無料（自宅から会場までの往復交通費は参加者負担）

応募締め切り：11月12日(水)〈必着〉

サイエンスキャンプ事務局：財団法人 日本科学技術振興財団

問合せ：TEL 03-3212-2454 FAX 03-3212-0014

Web サイト：http://spp.jst.go.jp

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内

編集委員長 櫻井吉晴

渉外幹事 繁政英治

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックして頂き、会員専用ページにアクセスして頂くことになります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID : jsr215

Password : B97rihTd

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、学会誌「放射光」のオンライン閲覧をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等御座いましたら、繁政 (sigemasa@ims.ac.jp) までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、櫻井 (sakurai@spring8.or.jp) までお願いします。

一口メモ

ベゴニア

シュウカイドウ科ベゴニア属の常緑宿根草のベゴニアは雌雄同株で、多くの種類の総称である。原産はメキシコ・南アメリカ・南アフリカ・アジアに幅広く分布する。葉に斑の入るものや八重咲きになるものがあり、花の色も赤、黄、紫、白と幅広い。温度と日照が充分であれば四季咲きし、春から秋まで花壇でも長く楽しめる。冬には室内で越冬出来るが、斑入り種や八重咲き種以外では実生でも簡単に増やせると共に、さし芽でも簡単に増やせる。

私は8月23日から30日まで大阪国際会議場で開催されました第21回国際結晶学連合会議に参加しました。2,700名を超える結晶学者が一同に集まり、最近3年間の研究成果を中心とした発表があり、非常に有益な時間を過ごす事が出来ました。そのほかに、歴代会長が市民を対象に結晶学と社会との結びつきをわかりやすく話して下さったのは印象に残りました。ところで、日本開催は今回2度目で、前回は36年前、京都国際会議場で開かれました。当時、私は大学院生で高校時代の友人の下宿に宿泊しながら、会場に向いたことを昨日のこのように思い出すことが出来ます。最初の国際会議出席で緊張の連続でしたが、世界に芽を向ける機会を得たのは大収穫で、その後の私の人生を大きく変えることになりました。(No. 83, K. Ohshima)

